

かつて「天体写真」といえば、一眼レフカメラとリバーサルフィルム（スライド用のフィルム）の組み合わせが「王道」でした。1枚の写真を撮るのに、最低でも10分ぐらいの露光が必要だったので、シャッター解放に電力を使うタイプのカメラはNGで、電源の必要がない完全に機械式のシャッターのカメラが最適でした。私は「ニコン F2」という頑丈なカメラを永らく愛用し、北極圏旅行でのオーロラ撮影でも使っていました。

その後、ペンタックスの「ist\*D」に始まる、「デジタル一眼レフカメラ」が登場し、その後10年ほどで天体写真も完全にデジタル化されました。フィルムカメラとちがって、撮影画像をその場で確認でき、露出やフォーカスを微調整しながら撮影できるのが、一番の強みでしょう。近年はコンデジ（コンパクト・デジタルカメラ）の性能も大幅に向上して、相当に美しい天体写真を撮れるようになってきました。また、「See Star」のような全自動の天体写真儀も次々と現れ、ほとんど知識や技術のない人でも、本格的な星雲や銀河の写真が撮れるようになってきています。



今回の「紫金山・アトラス彗星」は、「ヘール・ボップ彗星以来の大彗星」とも言われ始めており、天文ファンではない方も撮影に挑戦しています。その多くが「スマホカメラ」での撮影です。スマホカメラで淡い彗星の撮影など、ほぼ不可能というのが、これまでの常識でした。しかし今回の彗星が2等級前後と明るいこと、スマホカメラの性能が飛躍的に向上していることで、すばらしい写真が残されています。

今回の写真もその一つで、小学校の理科教員の草野健先生が撮影したものです。スマホの「ナイトモード」で撮影に成功したそうです。コマ（彗星本体）だけでなく、尾もしっかり写っています。地上の風景の構図も良く、非常に美しい情景的な天体写真に仕上がっています。

2024年10月13日  
調布市多摩川土手  
草野 健先生撮影  
掲載許可済